

アジア原子力人材育成会議を開催しました

平成 27 年 2 月 3 日～5 日の 3 日間にわたり、福井県国際交流会館において、国際原子力機関（IAEA）の協賛を得て、5 回目となる「アジア原子力人材育成会議」を開催しました。

本会議は、原子力人材育成事業の充実を図るため、平成 25 年 10 月に福井県と IAEA が締結した覚書に基づき、IAEA の専門家を招聘し、原子力発電や放射線利用について情報共有するとともに、福井県国際原子力人材育成センターの研修レベルの向上等について協議することを目的としています。

今回は、IAEA および原子力発電の導入を計画するインドネシア、ヨルダン、リトアニア、マレーシア、タイ、ベトナムの 6 か国から政府機関等の高官を招聘しました。また、国内からは、国や自治体、大学、電力事業者等の原子力人材育成の関係者が参加し、海外・国内併せて計 33 名が参加しました。

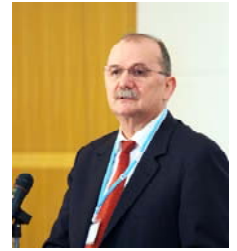
開会セッションで、西川知事は「本会議において、各国の原子力発電の導入における人材育成の課題について協議し、魅力的な事業を実施していきたい」と述べられ、参加者を歓迎しました。

また、IAEA のヴィンチェ原子力技術課長は、基調講演の中で「原子力は今後も多くの国にとって重要な選択肢。福島事故の経験から学び、安全文化の強化、社会的信頼の再構築に努めなければならない」と述べられました。

会議では、参加者から「IAEA や国と協力した福井の研修やワークショップを高く評価している。会議は今後も継続的に開催し、原子力計画の実施や原発立地地域の発展等、特定の課題を取り上げて議論してほしい」などの意見が出されました。



西川知事



パル・ヴィンチェ氏
(IAEA)



会議の様子

プラントメーカーとの情報交換会を開催しました

エネ研では、原子力産業への参入を目指す福井県内の企業を支援するため、三菱重工業（株）の協力を得て、平成 27 年 2 月 13 日に情報交換会を開催しました。この情報交換会は、エネルギー研究開発拠点化計画に基づく「新ふくい未来技術創造ネットワーク」の活動の一環として開催したもので、今回で 8 回目になります。

今年度は、プラントの保守や安全対策の工事等に求められる技術の中で、既設プラントの補修工事をはじめ、将来の廃炉作業でも活用される可能性があるものを、県内企業がプラントメーカーに紹介する場として開催しました。

情報交換会には、機械・繊維などの企業 28 社が参加し、うち 18 社が嶺南の企業でした。各企業は、プラントメーカーの担当者との個別面談で、自社の製品や技術力を熱心にアピールし、活発な情報交換を行いました。

今回の情報交換会を通して、県内企業とプラントメーカーの関係が構築され、県内企業の原子力産業への参入を促進するとともに、将来の廃炉ビジネスの育成にもつながることが期待されます。



参加企業による提案の様子

第3回支援制度活用セミナーを開催しました

平成27年2月12日、エネ研において、「第3回支援制度活用セミナー」を開催しました。

このセミナーは、エネ研と（独）日本原子力研究開発機構、日本原子力発電（株）、敦賀商工会議所、新しく未来技術創造ネットワークの共催で実施しており、各機関等の支援制度を県内企業が活用し、新たな技術や商品の開発につなげていくことを目的として実施しています。

今回は、県内企業などから、約50名の方が参加しました。

特別講演として、(株)ナ・デックスプロダクツ レーザーR&Dセンターの鈴木センター長に、大出力レーザー加工の可能性についてご講演いただきました。

続いて、各種支援制度の説明と、支援制度の活用事例としてすでに製品化されている「身体汚染防護服（セーレン(株)）」、「ストレートストランドロープ（芦森工業(株)）」、「高機能性消臭和紙（石川製紙(株)）」や日本原電（株）とネオシーズ(株)による「制御盤内端子台カバーの開発」に関する共同研究の成果報告が行われました。



開会挨拶
(旭理事長)



特別講演
(ナ・デックスプロダクツ(株)
鈴木センター長)



セミナーの様子

【海外研修生受入事業】原子力施設立地コースを開催しました

福井県国際原子力人材育成センターでは、アジアをはじめとする世界の原子力の安全技術と人材育成に貢献するための活動を進めています。

この度、活動の一環として、平成27年1月26日～30日の5日間にわたり、アジア諸国において原子力発電の新規導入や、立地推進を目指している国を対象に、原子力施設立地コースを開催しました。

今回は、バングラデシュ、インドネシア、モンゴル、マレーシア、トルコ、タイ、ベトナムのアジア7か国から計7名の研修生が参加しました。

当コースでは、原子力発電所建設の全体計画、環境影響評価及びリスクコミュニケーションなどの計8コマの「講義」や原電敦賀3、4号機建設準備工事現場など3か所の「施設見学」の他、新規導入国の社会的受容性の観点から、原子力新規導入における課題について「討論会」を実施しました。

研修生からは「自国のPRセンターの設立について大変参考になった」、「原子力発電所の立地を推進するにあたって、非常に役立つ情報が得られた」などの感想をいただきました。



原電敦賀3,4号機建設準備工事現場見学



討論会の様子

